

## 博士課程を終える研究者の方々へ



久 城 育 夫 (理学系研究科委員長)

博士課程を終了し、学位を得られた皆さん方から心からお祝いを申し上げます。皆さん方は大学院の間に自分の研究を進められ立派な成果をあげられたわけですが、研究者としてはこれからが本当の研究の道に入るわけで、今その入り口に立たれたと言えます。会社や国立・民間の研究所等に就職される方々も、多くは今後も研究に関与する仕事をされることと思います。

皆さん方はこれから研究者としての長い道のりを歩んで行かれるわけですが、その道のりにおいて幾つかの大きな“壁”があります。その壁を乗り越えるかどうかで、その後の研究に、あるいは研究者としての価値に大きな違いを生じます。壁にぶつかる時期は、人により、また分野により差はありますが、多くの人の場合、大学院を終えてから数年の間に最初の壁があります。これは、大学院を終えて一人立ちし、自分の構想および方法による本当の自分の研究を始めてから数年して顕著な成果をあげられるかどうかという壁です。もちろん、大学院の間に、指導教官に殆ど頼らずに自分自身で研究を行い、顕著な成果をあげた方も居られるでしょう。しかしそういう人にも、大学院を終えてからの数年間は、その研究をさらに発

展させられるかどうかという重要な時期です。大学院を終えて奨励研究員などになれる方々は十分な研究の時間があり、この重要な時期に研究を進展させ得る可能性があります。他方、教官になれる方々は、学生の教育の他に、教室の種々の仕事为重くのしかかって来て研究をする時間がなかなか取れないかもしれません。また、大学を出られる方々は、研究以外の仕事にも従事しなければならぬことでしょう。しかし、研究者として歩んで行かれる方々は、この時期に何としても研究を進展させ、壁を乗り越えるよう努力していただきたいと思います。周りもそれに協力することが望めます。前にも書いたかも知れませんが、アメリカなどでは、大学院を終えて assistant professor になっても、多くの人は学生の教育を熱心に行うとともに、懸命になって自分の研究も進展させようと努力します。これは終身的な地位を得るためもあるでしょうが、結果的には研究者として伸びることになります。周囲も協力的で、また予算的にもある程度考慮されている場合が多いようです。日本ではまだ、大学院を終えてすぐの若い研究者が十分に研究を進展させにくい状況で、この点を改善するために私達も努力しなければならないと思っています。しかし、最も大事なことは、皆さん方の意識と努力であり、あらためて気持ちを引き締めていただきたいと思う次第です。研究者として乗り越えるべき壁は、40才代にも50才代にもあり、研究者として生き残れるかどうかを問われることになります。そういう壁を乗り越えて研究活動を続ける人が真の研究者といえるでしょう。日本では、一度大学の教官になると、壁など意識しないでずっと居る場合が多いように思われます。これは、私自身に対する反省も含めて

言うわけです。しかし、皆さん方は、ずっと居るにしても、真の研究者として生きるよう努力して下さい。

若い研究者は研究に行き詰まって苦闘しなければ成長しないと思います。私は若い研究者が、研究に行き詰まって、悩み、悪戦苦闘している姿を好ましいと思います。別に意地悪い気持ちからではなく、それによって研究者として、また人間として成長すると思うからです。中には、研究に行き詰まることもなくスムーズに成果をあげるような幸運な人もいますが、そういう人はスマートに見えますが、研究者としてあまり深みを感じません。長い目でみると、若い間に研究で苦闘した人の方が後に研究者としてより大きく成長するように思えます。もちろん、研究に行き詰まって苦闘をくり返し、それを乗り越えて新しい境地を開くことが望まれるわけです。しかし、たとえ新しい境地を開き得なくても、研究者として成長して行く為に十分に意味のあることと思うのです。従って、研究を進めている間に行き詰まっても、それは自分の成長の為の糧と考え、諦めずに粘り強く研究を続ける努力をして下さい。

それから、研究を行うに当たってはスケールの大きい、あるいは出来るだけ普遍的問題と取り組んでほしいと思います。これについては、人によって意見が違っても知れませんが、若い時の研究テーマは一生関わることになる場合が多く、大きな、普遍的な問題と取り組んでいることはその

後の研究にとって重要であると思います。そのような問題と取り組むと、当然乗り越える壁も大きくなり、それだけ苦しみも大きくなるでしょうが、大きな壁に挑戦する意気を持ってほしいと思います。また、それとは多少違うことですが、研究には正確さと緻密さとがもちろん必要ですが、それと同時に、若い頭脳にひらめく自由な発想が極めて重要であり、そのような発想を大切に育てるような心がけてほしいと思います。ある著名な画家が次のようなことを言っているのを読んだことがあります。「若い画家の中には、色も形もよく整い、どこにも欠点はないが胸をうたないような絵をかくのがある。一方、薪ざっぽうを振り回しているようであるが、どこか胸をうつ絵をかくのがある。結局、ものになるのは、後の方の画家である」。論文で、薪ざっぽうを振り回しているようなものは読んでもらえないかも知れませんが、よく整っていないけれども何か胸をうつような発想がある論文は魅力があり、その後の研究の発展につながるように思います。

以上いくつか、行うことがなかなか容易ではない注文を述べました。いずれにせよ、これからの自然科学の発展は、皆さん方にかかっているわけです。あえて日本の自然科学などとは言いません。どうか、未知の領域を開拓する意気を持ってご自分の研究を押し進めて下さい。（3月29日の理学系研究科の学位授与式の挨拶に多少手を入れたもの）